

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

理事長交代	1
鈴木前理事長への感謝状	3
理事会報告・うちの会社	4
海外ニュース・委員会報告	5
新・パソコン外論考(其27)	6
出版文化史逍遙(69) 洋書の歴史雑記帳(XXIV) ...	7

理事長交代

去る6月30日付けで協会理事長・鈴木信夫氏(丸善㈱取締役会長)が退任され、代わって村田誠四郎氏(丸善㈱代表取締役社長)が理事長に就任されました。鈴木理事長は1996年7月に就任、以来強力な指導力を発揮されて協会活動の活性化に力を注いで来られました。長年のご尽力に深く感謝申し上げます。厳しい状況が続く洋書業界に明るい未来を期待して、村田新理事長には更なる力強いご指導をお願いする次第です。

新旧理事長から次のようなご挨拶をいただきました。

就任のご挨拶

理事長 村田 誠四郎

日本洋書協会の会員各社におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、この度は鈴木理事長ご退任の後をうけて後任の重責を担うこととなり、身の引き締まる思いであります。

初めに、当業界においてそれぞれのビジネスを通して海外出版物の普及と業界の発展に貢献されてこられました会員各社の皆様方に対して、心からの敬意を表したいと存じます。また、これまで6年間にわたり激動の時代に突入した洋書ビジネスの中で、協会の改革を積極的に進められ協会の発展のためにご尽力賜りました鈴木前理事長に対し皆様方とともに深甚なる感謝を表したいと思ひます。

さて、私自身は1961年に“洋書の丸善”に入社以来一貫して文具事務機、それからコンピュータの営業畑を歩んで参りました。従って、本の商売まして洋書や外国雑誌といった海外の書籍のビジネスに携わった経験はございません。しかし、近年コンピュータ技術のめざましい進化と情報化世界との密接な関わり合いのなかで、コンピュータの世界で生きて参りました人間として、知的情報の宝庫である海外出版物の持つ素晴らしいコンテンツや、そのメディアの変化、さらに書籍流通の変貌ぶりには強い関心を持っております。

今日、深刻なデフレから容易に抜け出せないで我が国の経済状況の下で、洋書の市場におきましても一



般消費者の購買意欲は低迷を続け、また、専門書の市場においても少子化による大学就学人口の減少などによって、大学冬の時代を迎え厳しい状況に直面しております。アマゾンに代表されるWeb書店が会員各社に多かれ少なかれ影響を与えていることは厳然たる事実ですし、外国雑誌のビジネスにおいては印刷体から電子ジャーナルへのシフトが顕著になっております。また、オンデマンドパブリッシングも次第に普及しつつあります。このように、ITの進展やグローバル化に伴う洋書や外国雑誌の市場の構造的変化に如何に対処すべきか、各社共通の課題ですが、今後業界の先輩の方々に教を乞いながら、情報を交換しつつ協会の発展のために取り組んで参りたいと存じます。つきましては、会員の皆様方の幅広いご協力を頂戴いたしたく、何卒ご支援賜りますよう心からお願い申し上げます。

退任のご挨拶

前理事長 鈴木 信夫

洋書協会の皆様、この6年間のご支援真にありがとうございました。

6年前、当時の洋書輸入協会の総会に初めて出席した時は、何やら白けた雰囲気があり、会員の声にも、協会に所属して何のメリットもない、存在の意義を問う、といったものが多くありました。存在の意義、という問題は、どういう団体にとっても問いかけとして常に存在するもの、でしょうから、これは当然にしても、考えるべきことは、同じ業界で生きて来た者同志の共感が薄れていたところにあったように思えました。事実、戦後50年、すべての分野で基本的な構造と理念といったところでの変化が顕在化し、洋書業界もその例外ではないことの認識は、会員間で共通していて、私の理事長就任1年ほどから、名称や規約の改定を含む、協会運営の基盤に関する特別委員会の検討が始まっていました。幸い、渡辺副理事長のご努力で、同委員会の審議を早期に終了することができましたのでその結論を推進することが私の目標となり、後は、共感づくり、が課題となりました。お蔭様で理事会を構成する主要各社のトップがご多忙の日程の中に、理事会日を必ず組み入れて下さる、というルーティンができた事から特別委員会答申に基づく新規約の解釈と適用、協会名称を輸入業者に限らない海外出版物にかかわる事業者全体に拡大、そこからのメンバー増強運動、各委員会活動の活性化、といった意思決定があまり時間を掛けずに進み、ここから協会としての新しい共感が生まれてきたように思います。昨年以降、理事会の実務的な対応をさらに強める意味でトップ代行者の参画を促進する形に変更されましたので共感の広がりにはさらに深まるでしょう。ただ、この6年間の市場事情としては、E-ビジネスの分野での変化に対応する各社の情報インフラ整備の時代、そして、その結果として大きな意味の棲み分けが進んだ時代、と言えます。各社は自己充実と将来思考のための努力に集中、



会員同士の市場競合の構図が、それ以前よりも穏やかに推移、協会内の徒な摩擦が起きなかったことも幸いした、と言えます。協会は、これから著作権と消費税を含む税制の改定問題に対する対応を求められることになるでしょう。しかし、一度蠢いた多くのクレームをその後の変化のエネルギーにした、という良い経験をした協会です。ならば、メンバーの中に今ある多くの蠢きを新しいエネルギーとして、これからの課題に挑戦していただければ、必ずや次世代の協会が新生してくることと確信をして、お別れのご挨拶と致します。長い間のご支援、重ねて厚く御礼申し上げます。

鈴木理事長在任中の主な活動

(1996年7月～2002年6月)

1996年9月：特別委員会発足

10月：洋書輸入協会史完結

1997年3月：特別委員会答申

11月：理事会方針策定

1998年11月：協会規約改正

1999年4月：日本洋書協会（略称JAIP）に改称

1999年6月：会員増強委員会発足

7月：共同物流プロジェクト発足

2000年7月：協会ホームページ開設

2001年4月：東京国際ブックフェア2001・イタリア
年展示主宰

2002年1月：協会事務所移転

この度の鈴木理事長ご退任にあたり、理事会より記念品（目録）と共に以下の感謝状を贈呈しました。

感謝状

鈴木 信夫 様

鈴木理事長が丸善の会長退任を機に、日本洋書協会の理事長を退かれることは大変残念です。理事の方々、各委員会の委員長も皆、同じ気持ちだと思います。私は理事といっても名前だけで、ほとんど理事会には出ていませんでしたが、こうして出席するようになったのは、鈴木理事長が大変熱心に出席され、リーダーシップを発揮されてこられたからです。それまで私の代わりに毎回出席していた大倉が、ある時、「社長大変ですよ、丸善さんは鈴木理事長が毎回出席されるようになったのだから、社長も出なければ駄目ですよ。」というような訳で、私も出るようになったのですから、すべての責任は鈴木さんにあります。

鈴木理事長は丁度6年間にわたり理事長を務められたことになりましたが、その間に、協会にコペルニクス的な変革をもたらしたという意味で、協会の歴史に堂々と名を残す名理事長だったと思います。とにかく、理事会にこれだけ熱心に出席された理事長は初めてでしたし、協会のあり方を問い直され、協会そのものが本当にこれから必要なのかといった鋭い疑問を皆に投げかけたのですから、私達理事としてもさぼってはいられなくなりました。理事長に就任されて最初の新年会で、協会の存続を問うというスピーチをされ、実に強烈なインパクトを与えられたのを今もはっきりと覚えています。

その頃特別委員会が設置され、とにかく協会を存続させ、会員相互にメリットのあることをやっていこうという答申案が出されました。それをうけて理事長が自らリーダーシップを発揮され、検討を重ねた結果、理事会方針が決定されました。大幅な規約改正がなされ、勉強会やセミナーなど研修活動の拡充、共同物流

など会員のビジネスメリットを作る機会の実現、ダイレクトリの電子化と協会のホームページ開設、協会パンフレットの発行など、次々と新しいことが実行されたのは、正に鈴木理事長のもとで、理事会、委員会が活性化されたことの現れです。そして、年々減りつづける一方だった会員数に歯止めをかけるため、会員増強委員会が設置されて、新たな会員の獲得に大きな実績を残しました。

こうして振りかえってみますと、鈴木理事長のもとでの6年間という期間は、協会にとって大きな出来事が実に多かったということが出来ます。

熱心で話の分る鈴木理事長のためなら、出来るだけのことをしようと思ってやってきた理事は私だけではなく、きっとすべての理事の方々がそう思ってこれただろうと思います。鈴木さんが理事長を退任されるのは実に寂しいことです。これまでのお礼に、理事会から記念品を差し上げたく、何が良いか考えましたが、理事長在任期間の洋書協会の会報を6年分製本し、贈呈させていただくことにしました。残念ながらバインドしたものが間に合いませんので、本日は目録を差し上げたいと思います。

鈴木理事長、大変お世話になりました。私達は益々厳しさを増すビジネス環境の中でも、洋書の普及という共通の目的に向けて、協会の活性化に微力ながら尽くしてきました。これも鈴木理事長のご指導のおかげです。ここに感謝を込めて、記念品を贈呈します。

平成14年7月11日

日本洋書協会 副理事長 渡辺正憲

理事会報告

6月19日（水）

1. 2002年度定時総会・旅行会の収支に関する事務局長報告を了承した。
2. 事業委員会より以下の報告があり了承した。
 - ・東京国際ブックフェア（TIBF）2002・洋書バーゲンセールでは過去最高の約1,430万円の売上があった。この内より20万円を協会に寄附した。
3. TIBFの開催権に関して、リード・エグジビション・ジャパンとの契約更新の時期にあるが、次回より同社とTIBF実行委員会との共催となる公算が大きい旨が新田理事より報告された。
4. 丸善㈱の役員人事異動により、鈴木会長及び戎井常務取締役が退任され、それに伴って協会理事長及び理事長代理をそれぞれ辞任されることになった。鈴木理事長より退任のご挨拶と共に、後任理事長に同社村田社長、理事長代理に浮田取締役が就任されることが発表された。

うちの会社

株式会社 三 善

東京都杉並区天沼2-2-19

Tel：03-3398-9163 Fax：03-3398-9170

当社は昨年5月創立50周年となり、21世紀への新たな旅立ちの一步を踏み出しました。

第2次大戦終結後の財閥解体のため安田財閥出身者により設立され、社名は安田善次郎翁の善の一字を頂いたものと聞いております。

現在の事業内容は設立当初からの外国書籍と紙製品に加えて電機機械のまったく異なる三つの事業を営んでおります。

外国書籍事業はアメリカ、イギリスの出版物の輸入卸業で、取り扱い商品は出版社・分野を絞り込み、その出版社、その分野については在庫を十分に揃えてお客様のご要望に即応出来るようにしてまいりました。

具体的にはペンギンブックス、ロングマンELT、児童向け英語教材、マグロウヒルなどであります。

なかでもペンギンブックスにつきましては創業の初期からのお取引でありまして、“ペンギンの三善とか三善のペンギン”とか称されるまでに育てて頂きました。ロングマンELTも25年以上のお取引となり当社最大の取り扱い商品となっております。児童英語教材は“KIDS MART”（登録商標）というカタログを作成して900点程の商品を一般家庭、英会話スクール、小学校などに販売しております。マグロウヒルは取り扱い始めて3年目ですが、主要タ

イトルのIE（International Edition）は技術立国日本の将来を支える理工学系学生や研究者からご好評を頂いております。

紙製品事業はペーパーコースター及び蚊取マットの我が国最初の専門メーカーとしてトップシェアを維持しており、電機機械事業は日本サーボ㈱製品の特約店として広く活動しております。50年以上続けてきました異業種多角経営は経済変化に柔軟に対応でき企業の安定をもたらしております。

事業所は東京杉並区の本社と群馬県高崎市の紙業工場並びに書籍流通センターとがあります。本社には総務及び3部門の営業部があり、事務・営業はワンフロアでまったく異なる仕事を和やかに進めております。

書籍部流通センターは3年前に新設され、常に変化する市場の要求に的確に対応できるように、スピーディーにかつ正確なデリバリーをモットーに日々努力しております。

今後の進むべき道としては外国書籍事業をもっと広く知って頂き、また市場のご要求にお応えできる体制を確立して尚一層の発展を図りたいと考えておりますので、何卒倍旧のお引き立ての程よろしくお願い申し上げます。

斎田利幸



海外ニュース

◆英国6月の書籍小売高は低迷

BRC-Templeton College UK Retail Confidence Indicator (英国消費動向指標)によると、6月の書籍小売高が低迷した主要因は、ワールドカップや売れ筋商品不足などでは無く、消費全体が不振な流れにあることの一環とのこと。この指標によると、英国の消費動向は15ヶ月連続で低落傾向。6月は「小売高減少、価格低下、そして消費意識の減少が見られた」と報告された。この傾向は書籍市場にも反映しており、チェーン書店も独立系書店も売上の減退を嘆いている。Nielsen BookScan & General Retail Market発表の数字でも、2002年1月1日～6月22日までの売上高は昨年同期比で0.2%減少が認められた。売上冊数は0.9%増だった。

◆STM系出版市場の世界的変動

STM系および学術書出版市場が世界的規模で変動している——業界トップクラスの出版グループ2社が売却され、さらに1社の売却が取り沙汰されている。ドイツを基盤とするメディア企業Bertelsmannは先週傘下のSpringerを売却する旨発表した。これはWolters KluwerがKluwer Academic Publishers (KAP)を売却するとして3月のニュースに続く動きである。英国では、これに複雑に絡み合うかたちでBlackwell Publishingの売却問題が存在する。同社では、主要株主であるToby Blackwellによる売却工作が検討されているが、評価額の査定にからんで経営陣での攻防が継続している。STMおよび学術出版市場では、主に雑誌の分野でコンテンツのオンライン配信が進んでおり、これら出版企業への深刻なプレッシャーとなっている。各社は、インターネット技術に投資するか会社自体を売却するかの選択を迫られている。

the Bookseller.com JUN/27/2002

委員会報告 <文化厚生委員会>

第105回 72会ゴルフコンペ

2002年5月18日(土)

会場：箱根カントリー倶楽部

参加者：11名

小林さん当会参加2回目で初優勝となりました！

〔成績表〕

		グロス	ハンデ	ネット
優勝	小林謙作(医学書院)	89	15	74
2位	大野利夫(日本出版貿易)	107	26	81
3位	鶴 竜次(東亜ブック)	98	10	88
4位	中林三十三(日本出版貿易)	97	8	89
5位	斉田利幸(三善)	93	4	89
7位	根来恒男(川崎航空)	110	11	99

ベストグロス	小林謙作	89
ドラゴン	中林三十三	小林謙作
	大野利夫	鶴 竜次
ニアピン	斉田利幸	鶴 竜次
	和田 茂	斉田利幸

(大洋交易 和田 茂)

新・パソコン外論考 (其27)

宇田川一彦

◆ Sentimental Journey / 感傷旅行

子曰、君子欲納於言、而敏於行、

The Master said, "The gentleman desires to be halting in speech but quick in action.

(論語／里仁篇・Confucius/The Analects／BookIV)

【超拙意訳；「紳士は、訥弁であってもよいが、その行動にあっては敏（敏捷）であって欲しいね」と先生は言われました。】

★ Internet について【博物館番外編 2】

再訪した香港は、脳裏の中の「image」とは大差がありませんでした。建ち並ぶ高層ビルと StarFerry (天星碼頭)。しかし、このヴィクトリア湾にも海底トンネルが数本（鉄道・地下鉄含めて、確か6本?）も掘られ、The Peninsulaも30階建ての新館が追加されて、かつての雰囲気とちょっと違う様子でした。地下鉄の MTR (Mass Transit Railway) で、九龍側から香港島側へ海底トンネルで行けたり（ただし、天星碼頭よりは割高）、骨董街を訪ねたときに経験した、長さ300m、標高差135mを上下するを（20基のエスカレーターと3基の動く歩道 Central Midlevels Escalator や Couseway Bay (銅鑼灣) のモダンな Times Square (時代広場) の高層ビルなど大きく香港も変貌してありました（香港関係の website：香港政府観光局 DiscoverHongKong.com/jpn/ *jpnの代わりにengとすれば英語）。

◆また変貌ついでに、「歩き煙草」が皆無というのも驚きでした（裏通りはいざ知らず、少なくとも大通りは・・・）。理由は、簡単。「禁止吸煙 最高罰款\$5000」。これは公共の乗物・場所、タクシーの中でもこの標識が貼ってあります。筆者は、禁煙生活14年目。ここ十数年は、煙草1箱の値段には無関心でした。航空機の中で、無税扱いの煙草1カートンは、HK\$110 (US\$15) = 約1700円前後でした。香港の街中での煙草の値段は、未確認です。ただ、筆者が尋ねた「学習塾」の経営者兼先生の言だと、「異常に高いですよ。日本の定価の2～3倍、禁止税的な感じです。私は、香港にきて煙草やめましたから」と言いつつ、見せてもらった煙草の箱（英国の煙草555）には、箱の4分

の1程度のを占有した広告がありました。特区政府忠告市民「吸煙引致癌病」(HKSAR Government Health Warning: Smoking causes Cancer)。

◆更に、もう一つ。携帯電話の普及です。これは海底トンネルの中であろうと、高層のビルの中であろうとバスの中であろうと、回りの迷惑顧みず、声高に、しかも延々と会話を楽しんでいるのです。これは、街中で「香港・韓国・日本でも使える携帯電話」(Motorola社製)という触れ込みで勧誘を受け一瞬心が揺らいだのですが、国際ローミング (roaming = 散策すること / ヨーロッパでは GSM = Global system for Mobile Communication 方式のサービスがある) のサービス料金を聞いて、やはり日本で契約した方が安上がりか、と思った次第。でも月々の契約料金は、かなり魅力的でした。A店では、毎月HK\$88 (約1400円) 500分、HK\$138 (2200円) 1200分、HK\$198 (3160円) 1600分が各々通話料無料。B店では、88\$ (600分)、118\$ (1200分)、178\$ (2000分) ということでした。携帯の料金は、安いし、無料の通話時間が長い。だから、電話代を無視してどんどん掛ける、という構図ができています。ただ、日本のようにカラーでGPS携帯だけの動画付携帯というきらびやかな装飾的电话は次世代用で、GSM機能に、3分録音可能程度の前世代の携帯電話が幅を利かしているのです。

◆また、塾の先生曰く、「固定電話も、家庭用HK\$62 (約990円)、事務所用でもHK\$90 (約1440円) で通話料無料。InternetもADSLで接続・・・」とか。塾生にも一人ずつmail-addressを渡し、質問等に利用しているとのこと。

◆閑話休題。香港歴史博物館 (Hong Kong Museum of History = website; lcsd.gov.hk/hkmh/) は、創立1975年。1998年、現在地「尖沙咀東郡」に新館が完成、2001年8月30日「香港故事 (香港400年の歴史、ジオラマやパノラマスクリーン)」常設展開幕 (と同時にグラントオープン)、新段階に入ってます。近くには香港理工大学 (HK Polytechnic University)、香港科学館 (HK Science Museum = website; lcsd.gov.hk/hkscm) があります。この香港歴史博物館を訪ねたときは、signal3という (学校休校になる) 嵐の日でした。地図をたよりに、ホテルで大きな傘を借りて訪ねました。

が、この博物館がないのです。(以下次号乞ご期待)

洋書の歴史雑記帳〔XXIV〕高野長英と洋書(5)

鈴木 陽二

◆「蛮社の獄」前後の洋学事情 (3)

高島秋帆といえば、いうまでもなく江戸末期に最新の西洋式砲術を移入し、高島流砲術を確立したことで知られている。幕府の軍政改革にもかかわり、老中阿部正弘より「火技中興洋兵開祖」の称号を受けた。

彼は、長崎の町年寄の家系に生まれた。高島家は累代町年寄で家格が高く、県庁前の大通りを渡った現在の万才町、当時大村町だった町域に大きな家屋敷を構えていたらしい。幕府は、西洋医学の本格的な導入を目指してオランダに教師の派遣を依頼し、軍医のボンペ・ファン・メルデルフォールトが来日して医学の伝習を始めるのだが、彼のもとで、佐倉藩順天堂塾頭佐藤泰然の子息で幕府の奥医師松本良順をはじめ、文部大教授となり日本で最初のドイツ語辞書『和訳独逸辞典』を監修した司馬凌海、東京順天堂病院の開祖佐藤尚中、文部省医務局長や内務省衛生局長など医療行政の道を歩いた長与専斎、杏雲堂病院を開いた佐々木東洋などが学び、幕末・明治期の医学界をリードした多くの逸材が育った。医学伝習所は最初長崎奉行所西役所（現在の県庁の位置）におかれたが、手狭になって大村町の高島家に教習所と生徒宿泊所を移した。司馬遼太郎『胡蝶の夢』によれば、八畳に三人という例外的にゆったりとした寄宿舎だったようで、緒方洪庵の「適塾」を引き合いに出し、塾生の居住区は塾生一人に畳一枚ほどの狭さだったと、当時の医学塾一般の寄宿環境の厳しさを述べている。大阪に現存する適塾を見学すると、確かに大勢の塾生がひしめいて起居しながら刻苦勉強していた様子が伝わってくるような思いがする。その後幕府は洋式病院「精得館」を唐人町の東山の手の小島に新築し、ボンペの後任にボードイン、さらにマンスフェルトと続けてオランダ医学教師を招聘し、医学伝習と医療活動を行った。日本の医学は、明治政府によりドイツ医学に切り替えられるのだが、近代医学の素地は、ボンペを始めとするオランダ医学陣による伝習で培われたということができる。

さて秋帆は、萩野流砲術師範だった父の影響で幼くして砲術に興味をもち、オランダ商館長から砲術の指導を受けたが、そればかりではなく、卓抜した時代感覚をもって海外の先進的な知識を積極的に摂取し、私財を投じて洋書の収集や白砲・小銃の購入まで行っ

た。彼が収集した洋書は、まれに見る多種類大量なものだったようで、オランダ商館への注文書を見ても商館を通して流入した兵書の多くを購入し、この時代第一級のオランダ兵書の収集家と認められていた。

細かいいきさつは除くとして、秋帆も「蛮社の獄」に巻き込まれ、町奉行烏居甲斐守の策謀によって逮捕投獄されたが、そのとき押収された彼の所蔵蘭書のリストが残っている（『長崎一件』長崎県立図書館所蔵）。天保13年に押収され、翌年幕府天文方の立ち会いの下で作成された目録で、「烏居甲斐守（耀忠）勤務中天文方立合相改候蘭書表題 高島四郎大夫所持之分」と朱書きされた目録だが、残念ながら筆者は今それを見ることができないので、ここでは、有馬成甫・佐藤昌介両先生の研究書に収載された書名を拾って紹介してみることにしよう。

総冊数136冊の中で兵書は111冊と極めて多く、彼の洋学への関心が軍事にあったことが分かるが、それらは三兵戦術、築城、工兵、砲術、馬術、火工品、歩・騎・砲操典、射撃術など多岐にわたる。今まで触れてきた各種蘭書目録に収載されていたタイトルと重なるものが多いのだが、それだけにこの時代の軍事関係の洋書の定本が浮かび上がってくる。著名なものを中心に、押収文書の書名のまま紹介してみよう。

「フォン・デッケル歩卒騎兵鉄砲之三件之心得ヲ記シタル書」「フォンブランドト歩騎兵鉄砲三件書」「スチールチース石火矢台造法説」はいずれも高野長英が訳しているし、宇田川榕菴や杉田立卿など幕府天文台の翻訳陣が訳したカルテンの『海上砲術書』、田原藩の三宅友信が訳した「シカルンホルスト袖珍兵書」や「（プロイン）軍中必要袖珍本」、あるいは「サファルト築城寨説」「ヒュギュエニン焼紅弾説」「メーレン砲術入門」なども見られる。ほとんど以前紹介した三宅友信の購入書や鍋島藩の蘭書目録に見られ、また、洋学を振興し海防に心を砕いた宇和島藩伊達家が幕府に借用を願った蘭書などもあって、この時代に軍制近代化に腐心していた諸藩や洋学者に争って求められた定番兵書がそろっている。〔参考文献：有馬成甫『高島秋帆』／佐藤昌介『洋学史の研究』／同『洋学史研究序説』／『洋学二百年記念展』目録／『洋学ことはじめ展』目録〕（元丸善・本の図書館長）

認知科学百科事典 全4巻 Encyclopedia of Cognitive Science 4 Vols.

Ed. by Lynn Nadel, University of Arizona, Tucson

2002:11. 4 Vols. 3,500p.

(ISBN: 0-333-79261-0 / 注文番号 MBN: 0137543)

出版前特価(2002年10月15日弊社受付ご注文分まで) 概価 ¥168,000

通常価(上記日付以降) 概価 ¥187,600

認知科学は、心理学、脳神経科学、情報科学、人工知能等で、幅広く研究されている学際的な分野として、現在活発な議論が展開されています。

本百科事典は、認知科学の全分野を網羅した待望のレファレンスです。「心理学」「哲学」「言語学」「コンピュータ科学」「神経科学」の主要分野や、「教育」「経済」「進化生物学」「人類学」等の補助的トピックについても言及し、「情報と情報処理」「表現」「計算論」等の共通テーマについて考察しています。認知科学に関する現在の多数意見と少数意見の両方を網羅しておりますので、認知科学に関する概要を広く深く理解することができます。

神経心理学研究、神経イメージング、計算論的アプローチ、行動的手法等、認知科学分野にて使われている重要な方法論について詳しく触れています。さらに、歴史的・文化的情况における認知科学研究に役立つよう、歴史的な発見や重要な論文寄稿者の経歴も紹介しています。

本百科事典は、2001年11月に刊行された The Encyclopedia of Life Science、2003年に刊行が予定されている The Encyclopedia of the Human Genome と相補的に活用することができます。

- ・世界的に著名な専門家によって執筆された論文約 700 点を収録
- ・16,500 語を収録
- ・カラーページを含め、約 1,000 点のイラストを掲載

【特徴】

- 1 認知科学分野で今まで刊行されたレファレンスの中で、**最も情報量が多く、総合的な内容**。心理学、神経科学、哲学、コンピューター科学、言語学のような認知科学において核となる中心分野はもちろんのこと、教育、経済、進化生物学、人類学等、関連のある周辺分野についても詳しくカバーしています。
- 2 上記に挙げたような各分野の**著名な専門家によって執筆された約 720 のオリジナルの論文や学術雑誌に掲載された論文**を収録しています。
- 3 学生から研究者まで全ての利用者にご活用いただく為、専門的レベルにも対応できる内容となっています。
- 4 各論文は 2,000 語から 6,000 語の長さであり、全体で約 25 万語規模となっています。
- 5 各論文には、**重要な資料や参照資料が掲載**されています。
- 6 **カラー・白黒の写真、イラスト、図表、挿絵も豊富に掲載**され、データや図は統一したフォーマットなので、より見やすく、わかりやすいページ構成です。
- 7 関連のある論文がすぐ見つけられるように、**相互索引と完全検索機能を充実**させています。
- 8 専門家でない方にもご活用いただけるように、**詳細な用語解説**がついています。
- 9 高名で国際的な編集諮問委員、科学顧問委員を設置することによって内容のレベルを高めています。

(Nature Publishing Group, GBR)

- 表示価格は税別です。
- 原価改定、為替相場の変動等の理由により、価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文は弊社本・支店営業部(課)までお申し付けください。

日本総代理店
M丸善
<http://www.maruzen.co.jp/>

【本社・日本橋店】〒103-8245 東京都中央区日本橋2-3-10 TEL: (03)3272-7211 振替:00170-5-5
首都圏店舗=お茶の水・赤坂・新宿・府中・立川・北千住・津田沼・舞浜・柏支店
店舗・営業所=千葉・八王子・さいたま/札幌・盛岡・仙台・新潟・郡山・筑波・横浜・静岡・浜松・名古屋・岐阜・金沢・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄／
ニュージャージー・ロンドン・マレーシア